

日に日に春は深まり、日差しにも一段と明るさが増してまいりました。

68名の卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。今程は、中学校の課程を修了したことを証明する卒業証書を、一人一人に気持ちを込めて手渡しました。ここで、この晴れやかな門出にあたり、何十年先までも忘れないで欲しい、はなむけの言葉として、「道徳性を高める」を贈りたいと思います。道徳性とは、人間としてよりよく生きようとする人格的特性のことです。

皆さんの入学と共に、私も本校に勤めました。しかし、新型コロナの感染拡大は、波はあれども衰えず、学校の様々な活動も制約を受け、窮屈さを感じる日々もありました。でも皆さんは、体育館後方のボードにある、令和2年度生徒会テーマ「磨く心 繋ぐWA 深まる絆」のもと、先輩方の心強いフォロアーとして活躍しました。そして最高学年となっても、学習、生徒会活動、部活動、体育大会等の学校行事に、素敵なアイデアとリーダーシップを発揮して後輩をまとめ、井波中学校の歴史に輝かしい1ページを記してくれました。この成長の陰には、徳の積み重ねによる人間力の深まりがあったと思います。

現代社会は、オンラインや人工知能の活用が進み、人との距離が遠く感じられる場面が増え、交流における知恵や感情の豊かさを得にくい日常となりました。しかし、人は一人で生きては行けず、互いに助け合うなど、人同士のつながりは永遠に欠かせません。この繋がりを深めるには道徳、つまりモラルが要であると信ずるところです。

SNSやテレビなどのメディア、友達との会話等、情報化は急速に発展し、自分という存在が飲み込まれやすい危険性も高まる中、正しい内容や信頼できる相手と繋がるためには、「今の判断は人間として正しいものなのか」「この決断は、周りを幸せにするのか」と、自らに一度問わなくてははいけません。そして、自分がもつ判断の基準、つまり軸に照らしながら適切に決めるのです。では、この大切な軸づくりで見失っていけないことは何なのでしょう。私は、無人飛行機と呼ばれるドローンが、使用する人の考えによって、社会に貢献する役立つものとなったり、相手を威嚇する武器に代わったりするように、心のもちよう、つまり、日本人が脈々と培ってきた「道徳性」だと思っています。

挨拶に代表される礼儀、最後まであきらめない強い意志、他からの恩恵をありがたいと感じる感謝、動植物などをいたわり守る自然愛護、学び続ける探究心、そして、温かな真心で接する思いやりなど、道徳的な価値はさまざまです。何気ない日常の中、いつでも、どこでも、誰とでも、喜び・怒り・哀しみ・楽しさの感情を味わいながら、時に振り返りつつ、道徳性を一層磨いて下さい。そして、たとえ差別や偏見に流されやすい環境に身を置くこととなっても、自分勝手にわがままな考えに同調せず、ことの本質を正しく見極めようとする生き方をして欲しいと願っています。

結びに、人生とは判断と決断の連続ですが、皆さんには、井波中学校の校訓である「自主完遂（すい） 明朗闊達（かったつ） 質実剛健」のもと、不確実性高まる時代をたくましく歩んで来た、強い精神力と豊かな道徳性が育まれています。新たなる道は、きっと切り拓いて行けます。加えて、どこで生活することになろうと、母校はこの井波中学校であり、心のよりどころは、家族、この仲間、地域の方々、そして、井波中学校教職員です。井波の素晴らしい自然、文化、人の温もりを宝物とし、二つとない尊い命を大事にしながら生きてください。

最後になりましたが、林教育委員様を始めとするご来賓の皆様、本日は誠にありがとうございます。高いところからではございますが、厚く御礼申し上げます。また、保護者の皆様、お子様のご卒業おめでとうございます。希望に溢れた未来への道を進むための支援を、今後ともよろしく願いいたします。

それでは再び、卒業生の皆さん。共に乗り越えてきた3年間を、私は一生忘れません。ありがとう3年生。はばたけ3年生。ずっと応援してるよ3年生。卒業生の前途に幸多かれと心からお祈りし、式辞といたします。

令和4年3月15日
南砺市立井波中学校校長 河原 秀樹